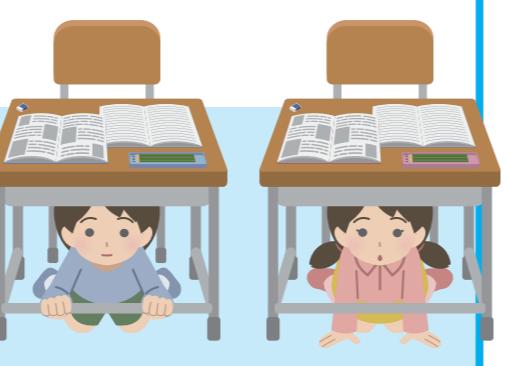


## 防災 耳より情報

## 釜石の軌跡とは

2011年の東日本大震災において、岩手県釜石市の小中学生約3,000人がほぼ全員無事に避難した奇跡的な出来事。子どもたちは、地震直後に教職員の指示だけでなく、自らの判断で高台へ避難し、地域の大人たちをも誘導したという。背景には、「津波でんぐ」という教訓に基づいた徹底した防災教育があった。訓練以上の行動を取った小中学生の主体性と判断力は、災害時における命を守る力として語り継がれている。



## さいたま市立病院は本当に危ないのか？

さいたま市立病院は、救急や出産、感染症、夜間・休日の救急対応や周産期医療など、不採算部門でも地域に必要な医療を担っている。

物価高騰や医師不足・人件費の高騰もあり全国的に病院経営が厳しい状況にある。先日の某週刊誌での「全国赤字ワースト病院100」の上位で名指しされたさいたま市立病院も経営状況は厳しい状況ではある。令和5年度の赤字は約31億円、実質的なキャッシュフロー赤字も約2.9億円となっている。さらに、未収金は約1.3億円に達しており、全国水準を上回っている。保険未加入の外国人患者で高額の未収金が発生したケースが複数あり、保証なし、在留資格不明、帰国後に連絡不能となる事例もあるという。

では、同病院は経営危機の病院なのか？赤字の大部分（約26億円）は減価償却費であり、新病院建設という将来への投資に伴う「帳簿上の費用」です。経営悪化の医療水準への悪影響の兆候もなく、建て替えを契機に医療機能は強化されている。市の一般会計からの繰り入れで穴埋めされている赤字は、市の財政を圧迫する水準でもない。ただし、そこには限度があり、現在経営改善が求められるのは必然である。今後は、①外国人への事前説明や保証の強化、②診療体制の効率化と重点化、③人件費・物品費の精査、など収益性の改善と業務改革が急務と言える。



## 小柳よしみの地域活動



ご意見・ご要望をお聞かせください

お名前

TEL

ご住所



市政へのご要望・ご質問は  
**小柳よしみ**事務所

E-mail: [info@koyanagi.jp](mailto:info@koyanagi.jp)  
ホームページ: <http://koyanagi.jp/>  
ブログ: <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>  
TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

「後援会イベントでハイ、チーズ！」

## 第56回 市政報告会

浦和パルコ 10階  
浦和コミュニティセンター

入場無料  
zoom  
オンライン  
参加可

日時 令和7年 8月 31日(日) 18:30~19:45  
会場 浦和コミュニティセンター  
第13集会室(東高砂町11-1 10F)



こ や な ぎ

## 小柳よしみ

小柳よしみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233  
E-mail: [info@koyanagi.jp](mailto:info@koyanagi.jp) ホームページ: <http://koyanagi.jp/> ブログ: <http://ameblo.jp/y-koyanagi/>

小柳よしみ 検索  
市政レポート  
2025.8 vol.64

変化を成長の  
チャンスとしよう！

～将来への期待感が生まれる市政であるように～

暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

6月中旬に早くも猛暑日が出現するなど暑い夏となっています。睡眠、水分をしっかり取るなど熱中症にご注意いただき、無理のないようお過ごしください。

本年は5月にさいたま市長選挙、7月には参議院議員選挙と大きな選挙が行われました。

清水市政は5期目も継続となりましたが、外国人問題対策や市政運営に対して新たな問題提起があったと認識しています。参議院選挙では、さらに大きな変化を市民が求めていることが明確になりました。個々の政策が重要なのは言うまでもありませんが、将来への希望や期待感のなさが一番の課題ではないでしょうか。さいたま市民がまちの将来へ期待感を持てるように、新たな変革を生み出す活動をしてまいります。

さて、新年度の6月定例会より新設された「子ども文教委員会」への所属となりました。子育て関係と教育関係をまとめて議論したほうが良いという趣旨で委員会が改編となりました。子育て世代の一員としてさらに積極的に取り組んでまいります。また、定例会後に立憲民主・無所属の会という第1会派へ所属が変更となりました。国政政党に所属しない無所属議員としての私の考え方や活動を尊重してくれた会派には感謝しています。これまでとやることが大きく変わることはあります。小柳よしみの活動にどうかご期待ください。

最後になりますが、まだまだ暑い時期は続きます。皆さまにおかれましては、どうかご自愛頂きますようお祈り申し上げます。

## TOPICS

## 1 中学生英語力6年連続全国1位！

文部科学省の令和6年度英語教育実施状況調査の結果において中学3年生でCEFR A1レベル（英検3級）相当の割合が89.2%で全国1位となった。全国1位は6年連続となる（関連記事 中面）。

2 子育て世帯特別給付金  
1万円の支給

子育て世帯への物価高対策として生活支援のため、18歳以下の児童を養育している子育て世帯に対象児童一人につき1万円を給付する。児童手当受給者には8月下旬ごろプッシュ支給、その他対象者は申請受付から9月下旬ごろの支給となる。



詳細ご確認  
ください。

3 電気・燃料電池自動車等の  
購入補助金の受付開始

電気自動車、燃料電池自動車及びV2H充放電機器の導入に対する補助金の受付が6月2日に開始。上限額は、電気自動車5万円、燃料電池自動車50万円、V2H充放電機器は今年から10万円へ拡大。

\*V2H充放電機器…住宅への電力供給と電気自動車の充電を双方で行えるシステム

4 さいたま市花火大会・東浦和  
大間木公園会場は  
8月9日(土)に開催。

これまで一般開放されていた大間木公園内は、今年から有料観覧席となるのでご注意ください。



## 6月定例会より

12月定例会では、議案63件、請願13件を審査し、議案はすべて可決された。報酬等審議会からの答申を踏まえ、市長等特別職、職員、議員の期末手当につき年間支給月額を0.05月増やす議案も可決された。小柳は、議員の定数や処遇などは専門家、市民代表で構成する第三者審議会の答申を尊重することを基本としてきた。ただし、今回は、約58.7億円もの物価高騰対策の補正予算が組まれる市民生活の状況を鑑み、議員報酬を上げる議案については賛成していない。その他、子育てや若者支援、まちづくり事業の補正予算も可決されている。一方で、順天堂大学新病院の計画が白紙撤回されるなど課題が浮かび上がった定例会でもあった。



## 【補正予算の主な内容】 総計…69億8,082万5千円

①子育て世帯への1万円給付金事業	22億7,471万8千円
②デジタル通貨を活用したポイント還元事業	15億7,301万8千円
③高齢者・障害者施設、保育所・幼稚園への支援金給付	7億3,837万7千円
④物価高騰対策として給食事業への支援	1億6,569万6千円
⑤下水道管路の全国特別重点調査	2億2,414万6千円
⑥中小企業向け省力化・業務効率化施設導入補助	2億5,916万円
⑦その他、指扇小関連複合施設建設、消防分団車庫の整備、生活保護・障害福祉・児童書相談等システム改修、地球温暖化対策事業など	

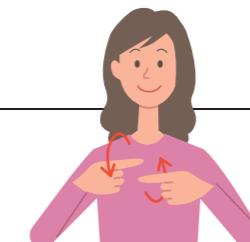
●公共施設工事の入札不調続く!  
～民間事業者に選ばれない時代となった～

近年、さいたま市では公共施設整備の入札不調が相次いでいる。2024年度には北部医療センター跡地の複合施設、2025年度には中央区役所周辺再編事業（予定価格約314億円）、そして武蔵浦和の義務教育学校新校舎建設も2度の入札不調、与野中央公園アリーナ整備も辞退が手続き中止となった。いずれも市民生活に直結する重要施設であり、整備の遅れは市民サービスへの影響が大きい。

背景には、資材・人件費の高騰、建設業界の人手不足、そして事業規模に見合わない発注条件がある。加えて、民間事業者から見た公共工事は「利益が出にくい」「手続きが煩雑」「設計や工程が硬直的で自由度がない」といった点で敬遠されているようである。

市としては、市場実勢に即した価格設定や条件緩和、早期からの対話型設計の導入、地元業者との協働関係の再構築、そして事業の取捨選択も必要となってくる。いまや公共事業は“発注すれば集まる”時代ではなくなった。抜本的な発想の転換が必要となっている。

## ●手話言語条例を制定



手話が言語であるという認識に基づき、手話の理解促進と普及を目的とした条例で、ろう者とろう者以外の者が共生する地域社会の実現を目指している。すでに埼玉県で条例化されており、実質的な施策の推進が求められる。今後は、様々な要因が想定されるロービジョン（視覚障害等）の方への支援に注力したい。



## 子ども文教委員会より

## ●子どもたちへの防災教育の充実を!

Q 子どもたちへの防災教育、避難所などの防災訓練への参加状況は?

A 中1は87時間、中2は124時間、中3は77時間を年間行っている。防災訓練への参加学校数は、過去3年間で（中学校58校中）、18校、25校、36校と年々増加している。

小柳の視点

東日本大震災の時の「釜石の軌跡」は、特に高学年の子どもたちが災害時において助ける側になれる好例である。自分の身を守る事にも繋がるので防災教育を推進すべきと考える。

## ●学校施設の地域開放をもっと!

Q テニスコートや教室の地域開放の状況は?

A テニスコートがある56校中15校で開放している。教室の地域開放は個別の許可はあるが、規則がなくセキュリティの課題等のためにできていない。環境を整えて進めてていきたい。

小柳の視点

テニスコート、コミュニティセンター、公民館等の予約が難しい状況がある。公共施設をより有効活用する必要がある。校舎の大規模修繕工事の際に地域開放のためのセキュリティ対策などの工事も併せて進めていくべき。

## 「水の流れる段床」

@さいたま市役所東側広場

未就学児対象の水の流れる遊び場です。保護者の皆さんとのコミュニケーションの場ともなっています。土日祝日含め9月30日（火）まで午前9時から午後4時開催。保護者同伴、段床内での飲食禁止など注意事項を参照の上、暑い夏に涼しさをお楽しみください。自転車置き場あり。



## ●快挙! 中学生英語6年連続日本一のわけ

さいたま市の中学生が、文部科学省による英語学力調査で6年連続日本一の快挙を成し遂げた。これまで、2007年度の小学校全学年での英語活動「潤いの時間」からスタートし、2016年度には小1から中3までの9年間を対象とした独自カリキュラム「グローバル・スタディ（GS）」が導入された流れがある。「聞く・話す・読む・書く」の4技能を段階的・体系的に育む独自のカリキュラムづくりは多くの自治体が視察に訪れている。

英語の授業時間も全国トップクラスで、小学校では国基準の約2倍にあたる年間419時間、中学校では標準より51時間多い471時間を確保。全校にALTや英語専科教員を配置し、教員への定期的な研修や授業改善、生徒による英語劇やディベート、国際交流など、英語を実際に「使う」経験の充実も特徴的だ。家庭教育や子供たちの努力があってこそであるのは、いうまでもないが、長年の積み重ねが成果となって表れているようである。

## ●さいたま市・川口・戸田市でゴミ焼却場火災が続発! ~リチウムイオン電池の発火が原因か~

今年1月、川口市のごみ処理施設で火災が発生し、焼却設備が大きく損壊。復旧費は約67億円にのぼり、半年以上が経過した現在も完全には再開できていない。今年7月には戸田市の施設でも火災が起き、市内全域で数日間ごみ収集が停止。「ベランダに生ごみを置いている」など、市民生活に深刻な影響が出ている。さいたま市も他人事ではありません。大事には至っていないが、2023年に桜環境センターで火災が発生している。収集車でのボヤ的な火災は頻繁に起こっているというは業者さんの声である。

共通して原因と考えられているのが、家庭ごみに混入したリチウムイオン電池の発火であり、全国的にこの事案が増えている。市内には、区役所や公民館、図書館など現在54か所に電池や小型家電を回収するボックスが設置されている。しかし、そもそも存在が知られていません。回収場所の周知と拡充、そして今後は定期的な一般収集も検討の余地があると考えています。

回収した電池の絶縁作業も膨大だそうです。まずは、ちょっとした手間ですが、一人ひとりが電池を「絶縁して専用回収に出す」という基本を守ることが、施設火災という被害を防ぐことになります。

